橘校区　タウンミーティング開催報告

【日　時】令和6年2月1日（木）19：00～20：30
【場　所】橘公民館
【参加者】地域：10人（橘校区連合自治会長など）
　　市 ：3人（市長、教育長、橘公民館長）
【テーマ】
1　橘校区の子育て環境の変化
2　橘校区の持続可能な発展（人口増加対策）

概　要

1　橘校区の子育て環境の変化

テーマ説明

2024年度の橘小学校新１年生は12名と聞いている。
人口減少に伴い、子どもの数が減少することはやむを得ず、橘校区においても学校の統廃合の検討は避けては通れないと思っている。
ただ、自治会と小学校とで実施している行事が多くあり、今後も子どもたちと関わることができる活動をしていきたいので、学校規模適正化に関して現状と今後のスケジュールを教えてほしい。

西条市の小学校の現状（行政からの説明）

▶橘小学校の児童数の推移
2024年1月現在86人で、2030年には55人、2050年には23人という推計値が出ている。
こうした現状を踏まえて、学校の規模適正化を検討している。

▶学校のあり方
文科省では、一つの小学校で12～18学級（1学年2～3クラス）を標準数としている。ただ、地域の実態に応じるべきだとも示されてはいるものの、現状では過半数の学校が標準数を下回っている。
人数が多い学校の大きなメリットとしては、クラス替えが可能であることが挙げられる。
教育委員会としては、運動会や文化祭などの行事の実施、また中学校では部活動や教科ごとに専門の先生を配置できるような一定の規模を確保したいと考えている。
小中学校は義務教育を担っているので、最終的に子どもたちの学習の場としての機能を高めていくことが大切であるが、その他にも文化的な象徴でもあり、防災拠点、健康づくりに資するスポーツ活動の拠点としての機能も備えていなければならない。

▶学校規模適正化に関するアンケート
複式学級を担当する教員は通常より負担が大きく、現在の担当は優れた指導力を持っているが、全ての教員が同じように対応できるとは限らない。
小学6年生の保護者及び市内の全小学校教諭を対象に、学校の適正な規模のあり方についてアンケート調査を実施した結果、「1学年あたり適切だと思う学級級」については、「2～3学級が望ましい」という回答が多く、また、「1学級あたりの適切だと思う児童数」については、「21人から25人」という回答が多かった。
将来的な学校再編については、保護者や教員の半数以上が、「今の配置が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない」と回答している。

▶今後のスケジュール
進捗状況としては、西条市の学校規模適正化基本計画案の作成を検討している。
令和6年4月に審議会の設立を予定しており、今後基本方針や計画を決めていく。
学校の現状を知っていただき、学校と地域が一緒に子どもを育てていく上で、今の状態が本当に良いのだろうかということを考えていただきたい。このことは、審議会から出た答申を受け、地域で考えていく際に大切になろうかと思う。
子ども達の状況も多様化しているので、人数のみで判断せず特徴のある学校をつくることができればよいと考えている。
これからコミュニティ・スクールが始まるが、学校単独で目標を作るのではなく、地域と一緒に考えていくことが求められている。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
自治会の活動の中で、小学校の位置づけは結構大きい。 仮に、地元の小学校がなくなり、統合した小学校が中学校のように規模が大きくなると、孫が通っているわけでもないので関わりづらくなる。 中学校3年間より小学校6年間の方が長いので行事に携わることも多い。どこまで地域（の意向）を絡めた統廃合になるのだろうか。 学習面では、低学年でしっかり教育ができれば、成長していく中で各自が勉強し、バイタリティのある子も出てくると思う。	他の地域でも「地域に小学校があることの価値」について意見があった。 地域の人は、地域の衰退と子どもとの関わりが希薄化することを懸念しているが、保護者やPTAの方は「学校規模の適正化」に反対ではない。 小学校の規模が中学校と同様になると、今より小学校と地域との間に距離が生まれる可能性はあるが、ある程度クラス替えができる人数が必要だと思っている。 地域の皆さんと子ども達との関わり方にもいろんな考え方があると思うが、小学校の校長先生から、「子どもの教育環境を最優先に考えてほしい」と言われたことがある。 学校施設の長寿命化を進めているが、費用面からいえば、新しい学校の新設という案も考えられる。新設する場合は、通学手段としてスクールバスの運行を検討している。
自分たちの地域はやはり自分たちでデザインしていくものだろうと思う。 仮に、スクールバスを導入するのであれば、子ども達が利用しない時間帯に高齢者が利用できる仕組みにするといった形で、固定概念に捉われず住みやすい自分たちの街を作っていけるチャンスでもある。	スクールバスを導入する場合には、既に運用しているデマンドタクシーを含め、高齢者を含む多くの人の交通の利便性を高めるために活用を検討しなければならない。 地域の皆さんと話し合いながら、積極的に進めていきたい。
小学校在校期間は、勉強面だけでなく人としての教育というのも必要だと思う。 また、学級数が増えても、地域が学校行事等に参加できなくなると、地域の過疎化が加速してしまうことが懸念される。 仮に橘・氷見・禎瑞小学校を一つに統合するとしても、旧校区ごとに学校に関わることはできるのだろうか。（橘地域の者が、橘地区に住む子ども達に関われるような行事・カリキュラムを組んでもらえるか）	カリキュラムも大切だと思っている。学校運営の方針にも意見を出してもらい、地域と学校で作っていけるようにしていきたい。 難しいこともあると思うが、新しい目標を掲げてやっていくことが必要だと思うので、我々が地域と学校の関わり方について基本方針を示していく必要がある。 地域コミュニティの希薄化が心配されるが、仮に３つの小学校が一つに統合されても、地域の子ども達を守っていかないと、地域の課題の解決にならないかもしれない。 実体験として、中学生の時に学校が統合したが、他地域の文化に触れることができた。いろいろな地域が交流することで、子どもたちの可能性も広がっていく。
自分は林業に従事していて、愛媛県では林業等第1次産業の支援をしてもらっているが、さらに発展していけばよいと思う。 本業を生かして、ある小学校で全校生徒を対象に、実際に伐採した木をみてもらうなど少しでも林業に興味を持ってもらえるような授業をさせてもらった。その流れで、別の小学校でも同様の授業をさせてもらった。 今後各地域で学校が統廃合しても、地域を分け隔てることなく、伝統が続いていくような西条市になればよいと思う。	林業に従事する移住者もいる。山を守ることで他の産業の繁栄にもつながっていくので、木の教育というのは大事である。 積み木など木のぬくもりを感じることができるような教育も必要だと考えており、コミュニティ・スクールでも取り組むことができるだろう。 リクエストがあれば、市域全域で山・海・土地の恵みについて教える場面ができるとよい。学校側の理解があると思うので、ぜひともお願いしたい。

その他の参加者の意見
・少人数でクラス替えがない場合、こども同士の人間関係や力関係が変わらないので、しんどい子どももいるのではと推測される。先生がいう、子どものことを大事に考えてほしいというのが正解だと思う。 ・地元に小学校がなくなることは寂しいが、将来的には統廃合もやむを得ないと思っている。少人数であれば地域で大事に育てられる反面、たくましさに欠ける部分もあると思うので、大人数で学ぶ環境で様々な経験を積みながら、人間関係でも刺激を受けて、たくましく、発想も豊かに成長できて良いと思う。 ・統廃合することを見越して、地域づくりをやっていかなければいけない。 ・統廃合によりできなくなることが懸念されることも、どう工夫したらできるかと考えるとよい。 ・子ども達は少人数で大勢の大人に見守られ育った方が、いろんなことが身に付いていいと思う。 ・橘小学校では、子どもの登校時の見守り活動を保護者や地域の人達が協力して行っており、地域の人も子どもがいるから元気が出る。統廃合により、地域でそういった姿が見られなくなるのは寂しい。 ・在校生が多い学校で揉まれることも大事かもしれないが、自分の孫は、少人数の学校で温かい環境で過ごすことができて幸せだったと思う。 ・自分の子どもが小学生の頃は、通学時の見守り活動はなかったが今はある。今後も時代に合わせて小学生を見守っていく必要があると思う。 ・西条シニアクラブの活動の一環で、小学校と協力していろいろな行事を行っているが、中学校とも連携すればいいのではないかと思っている。

2　橘校区の持続可能な発展について

テーマ説明

橘校区の人口は、令和6年1月時点で1,777人。10年前は2,034人でこの10年間で257人減少した。10年後はさらなる減少が予想される。

西条市は、住みやすいまちと評価されて移住者が増えているが、やはり西条で生まれて育った人が西条で就労できて、西条に住み続けたいと思える環境づくりが第一だと考える。

雇用の創出、人口減少の鈍化や人口増加のために西条市が取り組んでいることについて聞きたい。

行政からの説明

雇用確保と企業誘致の二本立てでいかなければならない。

西条市には本社機能を持つ企業が少ないので、雇用創出のため、中長期的に考えると、広い土地を用意する必要があるだろう。また、企業立地促進のため、奨励金制度を設けている。

今の若者は、転職が当たり前になっているので、長期的に働いてもらえる方法を必死に考える必要がある。

西条に住んでいたら当たり前のことが地域外の人からみると「特別なもの」と評価が高く、2020年から2050年までの人口減少率の推計では、西条市26.8%となっており、東予4市の中では一番減少幅が小さい。

女性は一度地元を離れると、なかなか帰ってこない傾向にある。

人口減少を鈍化させる取り組みとして、自分の子どもや一度西条を離れた子が帰ってこれる環境を作る努力を惜しまないようにしたい。

また、地域医療に取り組みたい医師をターゲットにした移住政策なども考えていく。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
農業従事者	
西条市に戻ってきて就農した人もいるが、地域内の農家の多くは高齢者で、機械が壊れたらやめるという人が多い。 法人化等を進めていかないと、土地も守れない状況になっていくだろう。 企業誘致等も大事が、農業分野にも力を入れていただきたい。	移住は当事者にとって勇気がいることなので、ミスマッチがないように手厚く対応していきたい。 志を持って農業を始めようとする30代の若者もいる。JAや各法人が行う研修で学ぶことができるが、今後設備投資や人材など経営面での課題が出てくるかもしれないのでサポートしていきたい。

<table>
<tr><th>参加者の発言要旨</th><th>市の発言要旨（及び対応）</th></tr>
<tr><td>地元への愛着</td><td></td></tr>
<tr><td>都会に住んでいる人が西条市に移住するが、西条市の人は都会に出たがる。西条市に住んでいる人に向けても地元の魅力をアピールできたらいいと思う。</td><td>出会いの場の創出から出産、子育てと一連の流れで西条市が住みやすいまちであることを情報発信していくことができればよいと考える。
実際に、男女の出会いの創出として、市内在住もしくは市内に移住したい独身男女を対象に婚活イベントを実施している。
4月からは子育て支援施策として子どもの医療費無償化を「18歳まで」に延長する。
地元の魅力は、働く場所や教育、子育て等の環境が関係してくると思うので、他の地域なども研究し、よい取り組みがあれば西条市でも実施していきたい。そしてUターンを含む西条市への移住者増につなげていきたい。</td></tr>
<tr><td>今年、キャリア教育の一環として、子どもたちが西条市に帰ってきた方やテレワークをしている人の話を聞く機会があった。
子ども達が普段の学習の中で、西条市に戻ろうかとか定住しようという気持ちを育てていくことができると思うので、今後学校教育の中でも取り入れていきたい。</td><td rowspan="2">橘校区は本当にチームワークのいいところだと思っている。
仮に、地域の範囲が広がっても、橘校区が行っている顔が見える活動・取組みを他の地域に知らせることで、このコミュニティを守っていく。
行政としてもしっかり皆さんに伴走していくし、もし何かあったらそれを反映させていく姿勢で対応していきたい。</td></tr>
<tr><td>子どもたち自身の生活基盤の中で地域の良さを感じることや、地域の方々の思いを感じていくことも非常に大事であるため、統廃合の是非を簡単に判断できない。
子どもたちがより良い学習を進められるような形での統廃合を検討していただきたい。</td></tr>
</table>

＜開催の様子＞